

本指導案は、「2018年度 横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会」において横浜国立大学の教員と横浜美術館が協働で作成しました。

横浜美術館コレクションを活用した鑑賞授業

美術科学習指導案

1. 題材名 **ちよつと似ていて、ちよつと違う**

2. 題材作品 奈良 美智 《春少女》
2012年（平成24年）
アクリル絵具、カンヴァス
227.0×182.0cm
横浜美術館蔵

3. 実施学年 第1学年

4. 学習指導要領との関連：B鑑賞（1）ア、イ 【H29学習指導要領：B鑑賞（1）ア（ア）】

5. 本題材について

心身の変化著しい中学生にとって、美術の授業を通して自己肯定感をもつことや他者理解を深める経験は、その後の自分づくりにつながる大切な活動である。

本題材では、個人の鑑賞からグループ鑑賞へと活動を展開し、作品の見方や感じ方を広げていく。絵の内容について、思いを巡らせたり、他者と話し合ったりすることを通して、自分なりの意味を見出すことの大切さに気付くとともに、他者の意見も等しく尊重しようとする態度につなげ、その後の学校生活や人間関係の中においても、相手の気持ちを想像し、他者の視点に立って物事を考える力を身に付けてほしい。

6. 題材目標

作品に描かれた人物の表情や色彩の表現に着目し、そこに込められた作者の思いや、造形的な良さや美しさなどを感じ取り、作品を幅広い見方、感じ方で味わおうとする。

7. 題材の評価規準（現・学習指導要領に基づく）

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
○絵に描かれた人物の表情や作品の色彩が感情にもたらす効果などに着目して全体のイメージを捉え、表現の意図や工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げようとしている。	○美術作品に取り入れられている形や色彩などの特徴や、印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさなどを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。

8. 準備

【教師】作品図版「春少女」

ワークシート、モニター（プロジェクター）、タブレット端末（撮影用）

色鉛筆

【生徒】筆記用具

9. 授業展開（全1時間）

1	生徒の活動	教師の指導・支援
導入 15分	<p>◇奈良美智《春少女》鑑賞…その1</p> <p>○スクリーンに映った作品を1分間じっくりと鑑賞する。</p> <p>○鑑賞後、記憶を頼りにワークシートに鑑賞した作品を描く。(色鉛筆で彩色も行う)</p> <p>○鑑賞して気付いた特徴や感じ取ったことをワークシートに記入する。</p> <p>○班員同士で、描いた絵や作品の特徴などについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●作品を1分間スクリーンに掲示する。 (プロジェクター等、視聴覚機材を利用して、作品全体が大きく見られるようにする) ●話をせず、静かな雰囲気の中で作品を鑑賞させる。 ●4人一班をつくる。 ●共有することで、さまざまな見方や感じ方があることを実感させる。(数名に意見を発表してもらい、出た意見を板書する)
展開 (1) 15分	<p>◇奈良美智《春少女》鑑賞…その2</p> <p>○再びスクリーンに映し出された作品を鑑賞する。</p> <p>○初見時との印象の違いや、新たに気付いたり感じ取ったりしたこと、どんな場所や状況を描いた作品なのかを想像してワークシートに記入する。</p> <p>○班員同士で、意見を交換し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●作品を再度スクリーンに映す。 ●1度目の鑑賞では気付かなかったことに着目させ、見方や感じ方の広がりを生徒が実感できるように声掛けする。 ●机間巡視しながら、生徒の描いた絵を一人ずつタブレット端末で撮影する。
展開 (2) 15分	<p>○自分たちの描いた絵を見ながら、鑑賞した内容を発表しあう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●撮影した画像をスクリーンに映し、数名の生徒を指名して鑑賞した内容を発表してもらおう。
まとめ 5分	<p>○本時で学んだこと・気付いたことをふりかえる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●作品の題名や制作の背景を伝え、形や色との関連から、表現の工夫や作者の思いについて考えを巡らせる。 ●自分なりの意味を見つけ出すことの価値や、他者の意見を尊重する姿につながるように、終末のまとめを行う。

10. 指導案作成者からのメッセージ

淡い色彩の中に佇む一人の少女、というシンプルな構成の絵画ですが、だからこそ、「同じ絵を見ても、見る人によって感じ方や見え方は変わる。」という、鑑賞の面白さに気付かせてくれる1枚です。本題材では、作品を注意深く見ることを促すために、描く活動を取り入れています。絵の再現性にこだわることなく、生徒一人ひとりの見方・感じ方を認める声掛けをしながら、授業を展開していただくと幸いです。

(指導案作成：横浜市立中学校教員 宇野拓哉、西山奈緒、吉田浩気)

■作品・作家について

奈良 美智 [なら・よしとも、1959 年生まれ]
《春少女》

2012 年（平成 24 年）

アクリル絵具、カンヴァス

227.0×182.0cm

横浜美術館蔵

左右で色が異なる大きな瞳。目元の白い光はまるで涙のようにも見えます。それでいて表情はすごく悲し
そうでもなく、ぎゅっと閉じられた口元からは強い意志さえ感じられます。一体この少女は何者で、何を
見つめているのでしょうか。

人物の思いや感情、その年齢、存在している場所など、見る人によって多様な見方や解釈が生まれてくる、
それがこの作品の大きな魅力といえるでしょう。さらに 227×182 センチという人物像としては圧倒される
ような大きさ。パステル調のやわらかで明るい色彩と輪郭線を用いない描き方によって、作品の前に立つと、
まるで夢の一場面に入り込んでしまったかのような、人の存在を超えた何かに出会ったかのような不思議な
感覚を覚えます。

奈良美智（なら・よしとも）は「子ども」を代表的なモチーフに、絵画や彫刻を制作してきました。本作
をはじめ、奈良は下描きなしにモザイクのように絵具を塗り重ねていくことで、段々と図像を描きだしてい
きます。その制作過程には特定のモデルはおらず、作品はすべて「自画像」なのだと語っています。

(横浜美術館 教育普及グループ)